永井のお不動さま

むかし、額田永井(那珂町額田)に、貧しくとも心やさしい夫婦が、一人娘のおさよと幸せにくらしておりました。

ところが、おさよは七つになった時、たちの悪い眼のやまいをわずらい、手当てのかいもなく失明してしまったのです。

それから夫婦は、何とかしておさよの眼を見えるようにしてあげたいと思い続けておりました。

冬のある吹雪の夜のこと——家の戸をたたく者がおりました。

みると、年老いた旅の僧が立っており、一晩泊めてほしいというのです。

夫婦は、こころよく僧をまねき入れ、あたたかくもてなしました。

人ごこちがついた僧はおさよの様子に気付き眼が見えなくなったわけをきいたのでした。

それは気の毒にと、僧は、夫婦に祈とうの方法を教えて、つぎの朝旅立っていきました。

それから二十一日間、僧の教え通りに親子で一心不乱にお祈りを続けました。

やがて満願の日——夢まくらに不思議な僧が立ち、こうお告げになったのです。

「永井の不動の滝の水で、朝夕、眼を洗うがよい。かならずや見えるようになるであろう。」

さっそく、お告げ通りにすると、何日かしておさよの眼は本当に見えるようになりました。夫婦は感謝の気持をこめ、不動堂を建て直して寄進しました。

それ以来、永井のお不動さまは、眼に限らず、どんな病気にもご利益があると、たいへん評判になったのだそうです。